



コペンハーゲン通信 8

当会事務局職員が、昨年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。「EUの中で最も競争力のある経済」(世界経済フォーラム)との評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

デンマーク王国 DATA

人口545万人(≒兵庫県)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「EU内で最も競争力のある経済」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

デンマークの教育事情(上)

齋藤 弘憲
在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向中)



時折、デンマークの高校生から取材依頼を受けることがあります。授業の一環の自由研究プロジェクトで、日本経済などをテーマに選択した生徒たちです。流暢な英語で鋭い質問を投げかけてくることも多く、日本の同世代と比べても、自分の意見を持つ大人という印象を強く受けます。

そこで、今回と次回の2回にわたり、デンマークの教育事情に迫ってみます。



卒業を祝う高校生が街で大騒ぎするのが初夏の風物詩 (©Visit Denmark)

◆日本と共通する「学力向上」の課題

北欧と言えば、OECDのPISA(学習到達度調査)でトップに立つフィンランドの成功例が有名です。そのフィンランドと国際競争力で上位を争うデンマークはどうかというと、実はPISAの結果を見る限り、優等生とはいえないレベルにあります(2006年調査結果/科学的リテラシー24位、読解力19位、数学的リテラシー15位)。

こうした現状を踏まえ、学力向上を求める声が国内で高まり、政府は2006年発表の「グローバル化戦略」の中で「世界トップクラスの初等・中等教育の実現」という目標を掲げ、「読み書き算盤の強化」「全国学力テストの導入」「義務教育の延長」「教員の専門能力の向上」「学校長の管理能力強化」「学校の実績評価の導入」といった施策を打ち出しました。

◆伝統的な「ゆとり教育」の強み

他方、デンマークはいわゆる「ゆとり教育」の先

進国として注目されてきましたが、こうした教育方針が誤りだったという声は聞かれません。

義務教育である9年制の「国民

学校」(小中一貫校)では、1クラス平均20名弱の環境の下、自ら課題を発見し、考え、解決するという自主性や自立心の尊重に重きが置かれており、「合理的に物事を考える」「自立している」「議論やプレゼンが得意」「協力・協働を重視する」といったデンマーク人の特性は、こうした教育の賜物ともいわれています。

ある会合の席で、「学校教育で教える知識の量では他国に負けている。しかし、『自ら考え、自ら決断する』『人と議論し、話し合い、協力する』といった、最も大切なことを幼い頃から学校で教えられてきた。これが今のわれわれの強みになっている」と力説した政府高官の言葉は、冒頭の高校生の姿を見ても、非常に納得できるものです。

◆小学校3年次からの英語教育

また、高校生でも流暢な英語を話す背景のひとつに、小学校3年次から実施される英語教育があります。テレビで放映される映画やドラマの多くが英米の作品であり、それを吹き替えなしの字幕で放映していることも、幼少時から英語に慣れ親しむ大きな要因になっているようです。(次号へ続く)



教室は壁のないオープン型が多い (©Valby Skole)